

第 1 回 買物公園のあり方検討会議 会議録

日時	令和 5 年 5 月 2 9 日 (月) 1 8 時 1 5 分～2 0 時 1 0 分
場所	旭川市大雪クリスタルホール 第 2 ・ 3 会議室
出席者	<p>参加者 1 4 名</p> <p>有馬 準氏, 草野 常幸氏, 久保 竜弥氏, 佐藤 真紀恵氏, 四戸 秀和氏, 鈴木 伸治氏, 鈴木 美央氏 (オンライン), 高橋 遼太郎氏, 長尾 英次氏, 中田 崇太氏, 蜂須賀 咲来氏, 林 亜優氏, 三浦 詩乃氏, 山田 直人氏</p> <p>オブザーバー 5 名</p> <p>北海道警察旭川方面本部交通課長補佐 中川 隆博氏 国土交通省北海道開発局旭川開発建設部 治水課流域治水対策官 結城 憲明氏 道路計画課長 坂本 毅氏 北海道上川総合振興局旭川建設管理部事業室地域調整課長 山下 宏治氏 旭川市土木部次長 鎌田 昭範氏</p>
欠席者	なし
会議資料	<p>資料 1 買物公園のあり方検討会議 参加者名簿</p> <p>資料 2 買物公園のあり方検討会議開催要綱</p> <p>資料 3 第 1 回 買物公園のあり方検討会議</p>
会議の公開・非公開	公開
傍聴の数	5 名 (報道 3 名)
会議内容	
1 開会	
2 市長挨拶	
市長	<p>本日は, 大変お忙しい時間帯にも関わらず, 多くの方に買物公園あり方検討会議にお集まりいただき感謝を申し上げます。</p> <p>昨年, 5 0 周年を迎えた平和通買物公園だが, これから 5 0 年後, 1 0 0 年後へ向かう買物公園のあり方を市民の皆様の手で考えていくことが, これからのあるべき姿だと思い, この会議を立ち上げたところである。</p> <p>買物公園が開設した当時の五十嵐市長も, 「買物公園は, 新しい世代の皆様にとって必要なものへ変えていくべきだ。」とおっしゃっていたが, まさに今, そのときが来たと思っている。</p> <p>私が幼い頃は, 親戚が経営する店舗が買物公園にあったこともあり, その店舗に寄った帰りに, 祖父母や両親に手を連れられてデパートに行っ</p>

	<p>遊ぶことや、地下で飴玉を買ってもらって帰ることなどが一番の楽しみであった。</p> <p>しかし、最近は通行量が減っており、若い人も魅力を感じなくなっている状況である。これからは、若い方にも高齢者の方にも居場所がある、楽しい、ワクワクするというような買物公園の夢を、この会議を通して描いていただきたいと思っている。</p> <p>私も昨年、買物公園のイベントで電動キックボードに乗って登場するなど、いろいろな提案を行ったが、それは、あくまで電動キックボードを導入すると決めたわけではなく、一石を投げ込んでいく、波紋を起こすという意味で、そのような行動をとらせていただいた。</p> <p>皆様の買物公園に対するさまざまな御意見や希望など、ぜひ、タブーなき議論をしていただき、新しい買物公園の未来像を皆様ともにつくっていければ良いと思っている。</p> <p>最後になるが、専門家の方々を始め、この会議に参加する全ての皆様にお礼とお願いを申し上げて、本会議の発足の挨拶とさせていただきます。</p>
3 会議の概要等について	
事務局	(事務局より、設置目的、所掌事項等の会議の概要について説明を行った。)
4 関係部局職員の紹介	
事務局	(事務局より、会議の運営等に関わる担当部局の紹介を行った。)
5 参加者の紹介	
事務局	(事務局より、資料1に基づく参加者の紹介のほか、オブザーバーについて紹介を行った。)
6 座長・副座長の選出	
事務局	(事務局から参加者に対し、座長及び副座長の選出方法について意見を求めたところ、特に意見がなかったことから、事務局より、鈴木伸治氏を座長、三浦詩乃氏を副座長として選出する案を提案したところ、参加者の同意を得た。)
7 議事	
(1) 今後の議論の内容	
<ul style="list-style-type: none"> ① エリアプラットフォームの構築について ② 未来ビジョンの策定について ③ 令和6年度 社会実験の内容について 	
事務局	ここから先の会議の進行は、座長にお願いする。
座長	議事に入るに当たり、今後、この会議で議論する内容について、事務局より説明を受けることとする。
事務局	(資料3に基づき、事務局より説明を行った。)

(2) 各参加者のイメージする買物公園の将来像について	
座長	<p>今後の議論に先立ち、参加者の皆様から、それぞれイメージする買物公園の将来像について、一人ずつ、お話をいただきたい。</p>
参加者	<p>先ほど、モビリティについての説明があったが、その中には自転車が含まれていなかった。私も普段、自転車に乗るが、皆様の日常で、最も身近な乗り物である自転車との親和性というものをぜひ考えていきたい。</p> <p>買物公園は、歩行者専用道路であり、自転車に乗ると違反になってしまうが、それをどうしていくのか。</p> <p>例えば、普通に自転車が走れば歩行者には危ないという議論はもちろんあるが、どうしても買物公園を自転車が通れないのであれば緑橋通りや昭和通りに自転車専用道路を敷くなど、上手く分離していくということも考えられる。</p> <p>買物公園の課題の一つとして、回遊性のなさがある。南から北へ回遊しない、しづらいというのがあると思う。その中で、自転車との親和性をどのようにすれば確立できるのかも考えていきたい。</p>
参加者	<p>私が所属している協議会においては、主に3つの内容の事業を行っている。1つ目は、イベントの開催や調整、買物公園でイベントを行う際の申請のサポートなどまちなかの賑わいづくりに関すること、2つ目は、支援を含めた地域商店街との連携、3つ目は、賑わいづくり事業の問題点の把握、改善などである。</p> <p>会議資料にも買物公園での主な定例イベントとして掲載されているが、4月末から10月末まで、買物公園と緑道を合わせ、オープンテラスを約80セット展開している。その中で気になることとして、買物公園の商店街、商店会の方々は、賑わいづくりに向けてもう少し積極的に動いて欲しいと思うところもある。</p> <p>また、オープンテラスを開催していると思うことは、買物公園の街路樹が、色的に非常にきれいであるということである。だが、街路樹には、ビアガーデンなどを開催するときに、葉や枝のボリュームがありすぎてテントが入らないことや、時期によってはテントや路面に樹液が落ちて景観が悪くなってしまうなどの問題がある。これらの問題に対しては、街路樹を旭川のシンボルであるナナカマドやツツジをはじめ、イチョウ、サクラなどに替え、それらを花が咲く季節ごとにゾーンを分け、将来的には、例えば、札幌のライラックまつりのように、季節ごとに、季節の変化に応じたイベントを開催できれば良いと考えている。</p> <p>また、オープンテラスについては、差別化を行いながら開催している。まず、フードテラスや、ふらりーと、旭川はれての近くのゾーンに多く</p>

	<p>の人を集め、オープンスペースの中で、路面店からテイクアウトしたものの飲食を自由に楽しんでもらいたいとの考え方のもと、旭川はれての前に16セット展開している。</p> <p>そして、8条の手の噴水がある近くの場所に6セット展開している。その場所は、買物公園で唯一、紅葉する樹木を楽しめる場所であり、特に紅葉の季節に、そこで近くの店舗で買ったものの飲食などをしながら、皆様にくつろいでいただきたいと考えたところである。</p> <p>このように、オープンテラスなどのイベントを開催する中で、観光客が来やすい、また、観光客に目的をもって買物公園に来てもらうことを考えたときには、街路樹を街路ごとに差別化をして、それらの花が咲く季節ごとに区分して植え、それぞれの花が咲く季節をずらしていくことで、観光客や市民が花見をするため、また、紅葉を見るために買物公園に来てもらえるのではないかと。私は、そのようなイメージを持っているところである。</p> <p>実現の可能性はわからないが、ただ単に、街路樹を緑一色にして、紅葉もせずに落ち葉だけ落ちる現状よりも、そのようなちょっとした工夫をすることにより、買物公園も変わってくるのではないかと。と思う。</p>
参加者	<p>現在、買物公園で飲食店を営んでおり、子どもの頃から買物公園で生活している。</p> <p>買物公園が開設し、形ができてきた頃がちょうど幼少期に当たるのだが、その頃は、左右に雨除けがあり、子どもが遊べるような遊具が区画ごとにいくつかあった。小銭を入れて乗るような乗り物やビデオゲームなどもあったように記憶している。</p> <p>また、自分が子どもの頃は、店舗の周りにも飲食店などが多くあり、年齢の近い子どもたちとそれらの遊具で遊んでおり、大人が目が届かなくても子どもだけで遊んでいられるような雰囲気であった。</p> <p>時代の変化もあり、現在は、遊具に関する安全性の問題などから、同じように小さな子どもだけで遊ぶことはできないとは思いますが、昔、自分が遊んでいたエリアで自分の子どもたちが遊ぶ機会がなかなかないのはなぜかという疑問からスタートしてこの会議に参加している。</p> <p>私自身の願い、将来像としては、買物公園で子どもがいる親世代が集まることができる環境づくりができればよいのではないかと。子どもが居る場所であれば必然的に親も集まるので、そのようにして人が集まれば、人の流れがもっとできてくるのではないかと。と思うし、そのようなことを意識しながら将来像を構築していければ良いと思う。</p>
参加者	<p>買物公園を通勤経路として利用していることから、普段から様子をよく見ているが、自分が高校生であった約20年前と比較すると、店の並びが</p>

	<p>変わり、店の数などが減っているという認識である。</p> <p>買物公園は、事業者が開業したいと思える場所になれば良いと思う。事業者が開業して人が集まるような場所、お金が回る空間になってくれればうれしいと思う。</p> <p>また、自動車中心の社会なので、駐車場の課題があると思う。よく聞くのは、駐車場代を払ってまで行きたい店がないということである。そうするとどうしても、駐車場が無料である大型の商業施設に人が集まってしまう。</p> <p>個人的には、店がたくさん集まり、そして、人が集まって活気があり賑わいあふれる、いろいろな人が気軽に集まれる場所になって欲しい。</p> <p>電動キックボードなどにも興味があり、ぜひ、乗りたいと思う。買物公園内をいかに移動するかということについても課題があると思うので、電動キックボードやセグウェイなどに気軽に乗れて、移動しやすいような環境になって欲しい。</p> <p>また、緑橋通りや昭和通りなど、周りの活性化にも繋がるような取組ができれば良いと思う。</p>
参加者	<p>私が買物公園について思うことは、主に2つある。</p> <p>まず、買物公園という名前に大きな理念があると思っている。買物機能は、時代の変化に伴って相対的に低下していることは事実であると思うが、買物以外の私的な機能をどのように呼んでくるかが重要になると考えている。</p> <p>例えば、昨年報道されていたような、旭川市立大学のキャンパスなどの学びの機能を買物公園のエリアの中にどう呼び込んでくるか。又は旭川産業創造プラザや旭川デザインセンターといった地域の基幹産業になっているものをどのように呼び込んでくるのか。</p> <p>また、デザイン創造都市として、デザインギャラリーなどの取組が行われているが、そういうものをもう少し買物公園側に引っ張ってくるなど、買物公園を中心市街地の拠点として、多くの交流を生み出す場所を設けられると良いと思っている。</p> <p>次に、買物公園の公園的な側面についてである。1970年代につくられた買物公園は、人のための空間としてつくられているが、率直に見て、現状は公園ではないと考えている。それを公園にしていくためには、問題はいくつかあると思うが、買物公園には川に挟まれており、川の近くには北彩都ガーデンなどの広大な緑地があるという立地的な特徴があるため、それらを結ぶ緑のネットワークを計画していくことが1つの可能性として考えられる。</p>

	<p>買物公園では、例えば、大人が子どもを連れてきて寝転がるということができない。現状は道路なので仕方がないが、買物公園が緑地的な空間になれば、都市のヒートアイランドや気候変動等の問題に対する旭川市の取組を象徴する1つの拠点にもなれると思う。</p> <p>現状は、買物公園が道路であることの限界が来ていると思う。全てを道路でないものにしてしまうということは難しいと思うが、部分的には、道路である必要性がないのではないかと思えるエリアもあるため、そのような視点での議論もしていければ良いと思った。</p> <p>そういう意味では、電動キックボードなどモビリティについての議論についても、買物公園の道路としての機能を充足させていくために規制を緩和していくというビジョンであれば反対であるが、例えば、公園という空間の中では乗っても良いと考えることはできるので、ビジョンがどこに向かっているのかを考えながら議論をしていければ良いと考えている。</p>
参加者	<p>私自身は、皆様と比べると、これまで買物公園とかかわる機会は少なく、皆様と精通度は全く違うが、皆様のお話から、買物公園に対する熱い思いが伝わってきたところであり、今後の会議が楽しみだと感じている。</p> <p>私はこれまで、いくつかの自治体で商店街への支援を行ってきており、具体的には、「この時代に必要な商店街は、どのような商店街なのか。」「商店街として持続可能であるためには何ができるのか。」といったことなどを現場で、商店街の方たちと考えてきた。そのようなことから、今回の会議に呼んでいただけたのではないかと考えている。</p> <p>また、私はこれまで、皆様の話にもあった子どもの居場所や買物以外の機能という部分で、マーケット事業やアート事業等を組み立て、それを自走化することまで事業としてやってきた。そのような経験を持つ身からしても、買物公園は、これまで皆様がつくられてきた、守られてきた、歩行者中心のストリート空間であると感じたし、皆様の思いを聞いて、これからも大きな可能性を持つものであるとも感じることができ、今後が非常に楽しみである。</p> <p>エリアプラットフォームについて、皆様もまだよくわからないと思う。私は昨年度から、埼玉県朝霞市でエリアプラットフォームの企画事業者として業務に携わっている。その中で、エリアプラットフォームについては、始まったばかりの事業だからということもあるのか、非常に曖昧で、型がないものであると感じている。だが、一方で、型がないからこそ、新しい形の官民連携が見えてくるということも、実際にやってみて感じていたところである。ある民間事業者からは、「今まで、このような形で市にアプローチされたことはなかった。」との声を聞くこともあった。</p>

	<p>官民連携で公共空間を活用していく姿は、簡単に描けるものではないが、これからやっていく意義があるし、新しい形が見えてくると良いと考えている。</p>
<p>参加者</p>	<p>私は、買物公園で小売店を営んでいるが、買物公園の課題は山積していると思う。</p> <p>かつてあった駅前のデパートがなくなり、大型の商業施設ができたのだが、買物公園の中にいる人間から見ると、そこから買物公園に人が流れるのではなく、逆に買物公園から、その大型の商業施設に目的を持っていくという人の流れがあるように感じる。</p> <p>買物公園が開設した頃の昔と今で状況が大きく変わっているし、時代の流れもあると思うが、旭川のまち自体を見ても、昔よりも永山や東光など、郊外の各地域にそれぞれ新しいお店ができ、人口も市内全体に分散されてきたりしている。</p> <p>そのような中で、買物公園に来なければならない理由がなくなってきているように感じており、特に若い人にとって、買物公園に来ることについてのハードルは高いと思う。</p> <p>また、夜については、新型コロナウイルス感染症の状況も落ち着いてきたこともあり、スーツ姿のサラリーマンで賑わったりもしているが、日中は閑散としてしまっている。食べマルシェなどのイベントのときには盛り上がりを見せるものの、買物公園の店舗はイベントのときだけではなく、365日営業しているのであり。イベントのときだけ盛り上がり、イベントが終わるといつものように閑散とした日常に戻るとというのが買物公園の実状である。</p> <p>多くの課題が山積しており、これから先の買物公園を盛り上げていくときに、具体的に、どのようなやり方で、どのようなビジョンを掲げていくことで解決策を見出すことができるかは、半信半疑な部分もあるが、自分でも、この先、10年、20年と会社を継続していきたいと思っているため、少しでも買物公園がこの先、明るくなっていけるように、何かプラスとなる議論ができればと思う。</p> <p>先日、私が参加した旭川の経営者の集まりなどにおいては、旭川大学の公立化に伴い、大学生をはじめとする若者の力がまちに必要だという意見が多く挙がっており、その場に参加していた今津市長や、旭川の経営者の皆様がそのように思ってくれているということについて、私自身にとっても、とても励みになったところである。</p> <p>市立大学のキャンパスを買物公園に設置することなどについて、現時点でどこまで検討できる余地が残っているのか分からないところもあるが、</p>

	<p>例えば、課外授業などでも、旭川大学の学生が一定数、定期的に、買物公園に足を運ぶようになれば良いのではないかと。そうなれば、学生たちが授業だけではなく、夜には買物公園の居酒屋でアルバイトをするなど、人の流れが単発ではなく、定期的に、持続的に続くと思う。まだ実現の可能性があるのであれば、検討していただければと思う。</p> <p>また、現在、新しいマンションが建設されているが、2条にあったデパートが残念な形でなくなってしまった。また、3条にあるファッションビルのオーナーとよく話すが、そのファッションビルも建物の老朽化という問題を抱えている。デパートの跡地やファッションビルが今後、どうなってしまうのかという不安がある。</p> <p>これらについてはこの会議の議論の中で何とかなるものではないかもしれないが、そこにデベロッパーが入ってマンションになること以外にも、今の時代にデパートが新たにできるということがトレンドであるかどうかは別として、人が流動的に集まり、まちの活性化につながるような跡地の活用についての考え方が重要であると思う。</p>
参加者	<p>私は、旭川に移住し、創業したというよそ者だが、買物公園とは年齢が同い年ということもあり、非常に思い出がある。</p> <p>はじめに、私は、買物公園の現状について、寂しいとは思っていない。それは、皆様が知っている買物公園の全盛期を知らないからであり、今が当たり前という状況の中で商店会の活動を行い、旭川市民の皆様の応援や指導をいただき、非常に感謝している。また、金融機関や商工会議所、行政の方にも大変お世話になっている。</p> <p>自分は、悲壮感のようなものを持って、相当な覚悟を持って創業したのだが、いざ創業してみると、オープン当日に、売上目標をあっさりクリアすることができた。それは、創業前から、向かいの方や同じ商店会のメンバーの方たちが、新しいお店ができるということを宣伝してくださっていたからであると思う。また、まちなかマネジメント協議会と市が作る無料のフライヤーに、顔入りで載せていただいたことなどで、創業前から、店について問い合わせがあるような状況だった。</p> <p>私が所属している商店会のエリアに関しては、今年、残念ながら4月に居酒屋が移転して1店舗の空きが出たが、ビルの中に入っているテナント以外に空きはなく、空きがないか問い合わせが来ている状況である。また、会議資料のグラフを見ても分かるが、4条以北は、ここ数年、歩行者の通行量にほぼ変化はなく、令和4年には若干増えているくらいである。</p> <p>皆様は、4条以北に人を回遊させることについて心配してくださるが、実は、我々の顧客、リピーターからは、意外と人がいる、賑わっていると</p>

いう評価をいただいているエリアである。もちろん、駅前の大型の商業施設の周辺と比較すると人は少ないが、決して寂しくはない。もともと旭川にいた人からは、寂しくなったとよく言われるのだが、日々、我々の認識とのギャップを感じている。

この会議の参加者にも、私が所属している商店会のメンバーがおり、商店会のイベント企画、運営を担ってもらっているが、我々のイベントは、各店舗がお金を稼ぐような、大きなイベントではなく、将来のお客さんになってくれるかもしれないということを考えながら、畑を耕したり、種をまいたりするような、小さなイベントを手作りで行うことを心掛けている。例えば、子どもたちに向けたイベントやビアガーデンなど、もちろん、インバウンドで海外の方が来てくれることも歓迎するのだが、基本的には、地域の人が来てくれるようなイベントを行っている。

私は、「旭川を盛り上げる」という言葉や、「賑わい創出」という言葉がなくなれば良いと考えている。伝わりやすく使いやすい便利な言葉であるのだが、私が所属している商店会では、なるべくそのような言葉を使わないようにしている。失礼ながら市の方に対して、市が言う、「盛り上げる」、「賑わい創出」とはどういうことなのかと噛みついたこともあるが、何年後かには、それらの言葉がなくなることが私の夢である。

私が所属する商店会では、「つながるまちと人と日常」というコンセプトがある。やはり、人口が減っていることから、市場も小さくなり、賑わいなど創出できないという考え方であり、その中でどうするかというと、日々、来てくれるお客様を大切にする。又は、お客様ではなくても、そこを通りかかる人を大切にする。

また、コロナ禍に感じたこととして、一時期、商店会の北エリアでは、私の店と向かいの店しか営業していない時期があった。その時期に、お客様ではないが、いつも私の店の前を通るおばあさんが、「電気がついていると安心する」と話しており、そのとき、シャッターを開けていることの意味を非常に感じたところである。

買物公園の端から端まで歩くのは大変だという話もあるのだが、元気な高齢の方も多いと感じる。買物公園は、ロードヒーティングがあるので、冬場でも、高齢の方がよく散歩をしている。このような状況もあり、社会実験を行っても良いが、わざわざモビリティを入れるほどなのかという疑問もある。

それよりも、健康を増進した方が良いのではないかと思うし、最近、郊外に出ていた高齢の方々が、まちなかのマンションに住めば除雪の心配がいらぬということなどを理由に、まちなかに戻ってきている。このよ

	<p>うな状況を見ても、もっと耳を傾けるべきことがほかにあるのではないかと思う。</p> <p>そして、今日、初めて、このような会議の場に来てよかったと思ったことがある。それは、この会議には若い方たちが参加しているということである。今まで参加した会議では、私が最年少であることも多く、当事者が不在で、誰に意見を聞いているのか疑問に思うこともあったが、今日の会議では、若い方たちから熱い思いを聞くことができた。</p> <p>また、若い方たちが、買物公園の公園機能や、かつてあった遊具について触れていたが、「原点に帰る」ということが、私のようなよそ者にとっては斬新であったし、非常に感動した。</p>
参加者	<p>私は、買物公園は、さまざまな方がチャレンジできる場であってほしいという思いである。最近、全てが飲食や小売りではないが、コロナ禍の反動からか、起業や創業に関する相談が増えており、相談でお話を聞く中で希望される方に対しては、買物公園などのメインの商店街での開店を御提案させていただいている。</p> <p>現在、旭川市経済部経済交流課と連携した出店促進補助金やスタートアップの補助など行っており、それらを通じて事業者の方を応援したいと考えている。</p> <p>若者もそうだが、定年退職をされた後に、御自身で何かやりたいという方も増えてきている。未来を創っていくのは若者だが、少子高齢化が進む中、これからは年配の方も必然的に増えていくことから、買物公園は、そのような年配の方たちのための場でもあっても良いと思っている。年配の方たちに対しても私たちがしっかり支援していくことで、御自身の商売も軌道に乗り、地元の商店街や商店会の活動にも参加し、深くかかわっていただけるのではないかと思う。</p> <p>これからもチャレンジしたい方々を応援したいと思っているし、この会議においても、皆様といろいろなことを考えていきたいと思っている。</p>
参加者	<p>買物公園の将来ビジョンについては、どの程度の先を考えるかで変わってくると思うが、長い目を見た場合、公園の機能と買物の機能の両方を充実させなければ、もうこれから先はないと考えている。</p> <p>自分ももう自分より下の世代を育てていかなければならないと思っているが、空き店舗がない、交渉が難しいという問題が出てきていることから、若い世代を育てるために、若い世代が働ける場所をつくっていく、仕事をつくっていくことが大事だと思うし、そこで働く人をつくる「人づくり」の面でも働きかけていかなければならないと思っている。</p> <p>旭川の高校や大学を卒業して、市外に出てしまう学生がとても多いと思</p>

	<p>う。彼らが、旭川にいたいと思えるような状況をつくっていくことや、働きたいと思える場所をつくっていくこと、また、その前段階で、旭川の社会とかかわっていくこと、旭川の大人と何かをしていくような場所や機会をつくっていかなければならないと思っている。</p> <p>少し視点は変わるが、移住に関しても、移住したいと思ったときに、人と人がつながることができる仕組みが必要である。例えば、「起業したいと思うのであれば、あの金融機関の〇〇さんに会いに行ってください。」「商工会議所の□□さんに会いに行ってください。」「まず相談したいのであれば、あの商店会の理事長の△△さんに相談しましょう。」というように、きちんと人がつながっていくまちを旭川でつくっていかなければ、これから先は難しいと感じている。</p> <p>人がつながっている安心感の中で、公園的な機能があり、「子どもたちが商店主さんと一緒に安全に遊べる。」「ここに行けば誰かに会えるから、まちなに行こう。」「ここに行けば旭川の楽しみ方を教えてくれるから、この人と一緒に飲みに行ってみようか。」というようなことも生まれてくる。もちろん、目に見えるものも大切だが、長い目で見た場合、人のつながりや人づくりということも大切であると思う。</p> <p>また、近い将来のことでいえば、私はイベントの企画もしているが、そのようなときに、買物公園は使いづらいと感じる。何か新しいことをしようと思ったときに、イベントでしかできない、単発でしかできないということがネックだと思う。新しいことをもっと、どんどん日常化できていけば、それが街の風景にもなっていくし、人の流れにもなっていくと思う。現状は、イベントを単発でしかできないということが直近の課題だと感じている。</p> <p>昨年、私が所属する団体において、10年先の7条エリアの将来ビジョンをつくるワークショップを行ったが、そのときには、「憩いの場が欲しい。」という意見がとても多かった。例えば、「人工芝が敷いてあるエリアが欲しい。」「ベンチが置いてあるエリアが欲しい。」「遊べるものを貸してくれる場所が欲しい。」「人と語り合える場所が欲しい。」という意見が多く出てきたので、これから先は、公園という機能と買物や働く場所の機能の全体が交差する買物公園になれば良いと思う。</p>
参加者	<p>私は、散歩をしたり、自転車に乗るなど、アクティブにいろいろな所を回ることを楽しみにしている。車ではない何かで回ったときに、それまで知らなかったお店などの新たな発見があったりするが、そういうことが楽しいと思っており、買物公園も、晴れている日などによく回っている。</p> <p>旭川は、観光客の方が多いと思う。私が勤務している店はまちなかから</p>

は遠いが、観光のついでに来るという方が、特に、夏場はかなり増えてきた。また、冬場についても、スキーに来たついでに寄ってみたという方も増えてきた。

旭川には、旭川駅に直結する道路、通りやすい道として買物公園がある。

私の地元である小樽では、運河を目指して人々が来ており、そこにメルヘン交差点というものがある。メルヘン交差点には、食べ物屋や雑貨屋など、いろいろなものが集中しており、小樽市民もたまに行くと感じる場所である。

旭川にもいろいろなものがあり、ないものはないと言っても良いくらい物が集まっていると思うが、買物公園に行ったときに、旭川に来たらここに行けば良いというポイントがあまりないように感じる。日常よりのものが多く、それならば何でも揃う大型の商業施設に行った方が手取り早いということになってしまっているところがあると思う。買物公園を、通ることによって楽しめる場所にしていくということがポイントだと思う。

私が考えているのは、例えば、観光で旭川に来たとき、ホテルの周辺に飲食店が多くあることもあり、ポイントになるのは食であると思う。食べ物の力は大きく、実際に、「食べマルシェ」という食のイベントも人気があり、人が集まっている。今後も食を充実させることにより、多くの人に来てもらうのはどうか。

そのように考えた場合、どこにどの店があるかが分かるマップが目につくところがないため、奥まで行かないという実態もあると思う。もし、奥の方に自分の目指すお店などがあれば、歩いてでも行く。また、そこに行く途中に良いお店などがあれば、入ったりすることもあると思う。

そして、そういうときには、電動キックボードなどの乗り物に乗ってしまうと、スピードが速くて見落とすことがあるので、歩いて回ることがポイントであると思う。

また、現状は、買物公園の周辺にビルなどの建物が密集していて、休憩できるポイントが少ないと感じている。買物公園の中間辺りに広場のような抜けた空間があれば、自由にそこでピクニックをする、お店で買ったものをテイクアウトして集まる、子どもが遊べるなど、ただの広場があるだけでも、若い人からお年寄りまで、誰でも集まることのできる場になるのではないかと思う。

そして、買物公園が、例えば旭川家具など、旭川の特産品などの情報を知ることができる場所になれば良いと思う。観光客が買物公園をなんとなく通ったときにさまざまな情報を入手し、例えば、郊外の本店がある場所にも行ってみたいと思ってもらえるようになれば良いと思う。そうすれば、

	<p>旭川の端まで人が動くと思う。このように、旭川駅から一番近い買物公園を生かし、情報の中心地として育てていければ、人も通るし、周りにも発信できる場になると思う。</p>
<p>参加者</p>	<p>私は、買物公園の近くに実家があった関係もあり、ずっと旭川に住んでおり、昔から買物公園で遊んでいた。また、私の周りには、幼い頃からずっと旭川にいて、社会人になっても旭川の企業に勤めている同世代の人たちが多く。その人たちとよく言い合うのが、「旭川って、けっこう暇じゃね？」ということであり、例えば、仕事が休みの日には、旭川ではない別のところに遊びに行ってしまう。</p> <p>私自身も、目的があって買物をしに行くわけではないことが多く、「休みの日だから外出したいけど、行くところがない。」となることがよくある。また、一か月のうち、月の始めに買物へ行くと、そのあとは暇になってしまうことがよくある。</p> <p>買物公園は、せっかく買物公園という名前であるし、特に目的はなくても「暇だし、買物公園でプラプラするか。」という感じのエリアになれば良いと思っている。比べるのは違うのかもしれないが、都会には、そこを歩いているだけで「自分はけっこうイケてんじゃね？」と思えるエリアがある。</p> <p>そのように、買物公園も歩いているだけで、「買物公園を歩いている自分はけっこうイケてるな。」という場所になれば良いという思いがあり、縁もあり、会議に参加させていただいている。目立った経験などは特にはないが、何かの力になれば良いと思っている。</p>
<p>副座長</p>	<p>1回目でこれだけの意見を密に語る会議には、これまであまり参加したことがない。今日だけで、今後の未来ビジョンの方針につながるような重要なキーワードがたくさん出てきたと思っており、非常に楽しみである。市民の広場として、買物公園という強いメッセージ性のあるコンセプトでつくられた場のもあると思うが、この会議や、これまでの調査で関わってきた中でも、買物公園に対して、市民の方々はかなり熱い思いを持っていると感じる。</p> <p>この会議自体は、限られた人数のプラットフォームであるが、おそらく買物公園に関しては、市民一人一人の方々が同じ熱量で話せるような、他に代えがたい、他に比べようがないほどの熱意を持っていると感じる。ただ、それらの熱意や、百人いれば百人が持っているアイデアが、この空間につながりとして現れて来ていないのは、仕組み上の問題があるからではないかと強く思っている。</p> <p>市民の皆様からは、出る杭になりたくないという意見もよく聞くが、出</p>

	<p>る杭になって、打たれなければ何も変わらないということについては、時代は変わってきている。何かを変えるときに決死の覚悟で臨むということではなく、例えば、皆様から本日、いただいたアイデアを1つずつ、少しずつ、ライトに変えていけるような時代になってきており、制度上もそうしたものを応援する。そのような流れの中で、今回、出たアイデアから始めて、百人百通りのアイデアが生まれてくるのではないかという期待を持ったところである。</p> <p>道路空間については私の専門でもあるが、まず、まちからのニーズがあって、それにそぐわない部分に関して、規制緩和という形で、これまで標準とされていたものを書き換えていくということになる。</p> <p>ただし、書換えに関しては、そこで新しく行われることに誰が責任を持つかということが重要である。責任を持つのは、発案した市民の皆様やそれに協力した専門家になってくると思うが、その人たちがきちんと責任を持てるか、また、さらにサポートする市民の方々がいるかということが大事になってくる。</p> <p>その点では、今日の皆様の話聞く限り、そういった市民の方、それをサポートしていただける方々がいると強く感じたところであり、私も応援したいと思う。これから物事が速く進んでいくが、今日出た意見を1つの形にしていきたいと思う。</p>
座長	<p>私は、都市計画が専門であるが、買物公園については、道路の話だけをしていても仕方がないし、公園の話だけをしていても仕方がない。例えば、新たにマンションが建てられていることや、今ある建物が建て替わることなど、沿道の建物なども含めてセットで考えていく必要があることを、今日、改めて、買物公園を一通り歩いてみて感じたところである。</p> <p>皆様から、いろいろな思いを話していただいたところであるが、大きくまとめると、まずは、空間としての魅力ということが挙げられる。「原点に帰る。」ではないけれども、かつては、たくさん子どもたちが遊んでいた場所であり、そのようなことが求められるようなことがある。また、単なる移動の場所ではなく、もっと居場所となれるような場所となることも必要である。現状は、イベントのときだけにしか実現できていないが、もっと日常的に、使われる場になっていく必要があるということである。</p> <p>次に、チャレンジできる場であることである。例えば、新しい担い手がお店を開くことができるとか、そのような思いを持った人が、地域の人とつながり、チャンスを掴んでいく人が増えていくと良いと思う。広げて考えていくと、人づくりや人のつながりをどういう風に買物公園に戻していくかが重要であるという皆様の思いもあった。</p>

	<p>また、道路としての限界という御意見もあった。自転車に関する御指摘もあったが、これは、トータルに、交通の問題として問うていかなければならないという部分もある。さまざまな新しいモビリティの話もあったが、今、既にある交通手段とどのように整合性を取っていくのかも含めて考えていかなければいけない。この点は避けて通れないと思う。</p> <p>そして、買物公園にもっと期待する御意見もあった。例えば、大学の人たちが集まるような場にできないか、デザイン都市としての取組とどのように連携していくのかというご指摘もあった。また、観光の視点で見た場合に、「旭川という場所はこのような場所なんだ。」と分かる場所が必要だという御意見もあった。単純に商店街であるだけでなく、買物公園にもっと中心性を期待する声もあった。そういう要素をこれから整理しながら組み込んでいく必要があると思う。</p> <p>最後に、副座長から指摘があったように、仕組み上の問題があると思うので、会議の上では、課題をきちんと認識した上で、次回以降、議論していく必要があると思う。</p> <p>今までのまちづくりは、きちんと管理した上で、問題がないように、とにかく丁寧に考えていくことが基本だったのだが、時代がもう変わってきている。</p> <p>もっとライトに、もっとチャレンジして、そこから次の手を考えていく。「アジャイルなまちづくり」という言い方をするが、実験をしながら次の手を考えていく。大きな方向性はみんなで共有して、それに向かってみんなできんなことをできる場にしていこうということが、まちづくりの大きな転換点である。</p> <p>この会議は、トータルで8回予定されている。これだけ時間を十分に取って議論することはなく、行政の本気度の現れであると思うが、80年代、90年代の「歩いて楽しいまちづくり」と、現代の「ウォークブルなまちづくり」は根本的に異なっていることを我々はもちろん、行政の方に特に認識していただき、今の状況をどう変えていくのかということを中心に、今後、議論していければと思う。</p>
(3) 今後のスケジュール等について	
事務局	<p>事務局から今後のスケジュールについて、次のとおり説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回会議は、6月29日（木）の14時30分からの開催を予定 ・ 買物公園内の場所を借りて実施する予定 ・ 開催前にモビリティの試乗会を実施予定である。確定次第連絡する。
8 閉会	